

(様式2・中学校用①)

# 令和7年度 学校評価報告

草加市立新田中学校

(令和8年1月9日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 豊かな心と 学ぶ意欲をもち 広い世界で たくましく生きる生徒 ・基礎・基本の確実な定着 ・積極的な生徒指導の推進 ・「特別の教科 道徳」の充実 ・服務規律の確保 ・教員の授業力の向上 ・居場所がある環境づくり ・健康教育・安全教育の推進 ・教職員の負担軽減及び健康管理	
<b>2 重点目標・努力目標</b> 子どもが誇りを持てる学校に ～「新田中プライド」の育成を～ ・教師ひとりひとりの授業力向上 ・集団活動を通じた豊かな人間性の育成 ・「新田SPIRIT」の推進 ・共感的な人間関係の育成 ・教育環境の整備	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ・全教職員が学校教育目標を理解し、学校運営参画意識をもって、校務分掌にあたることができた。 ・体育祭や合唱祭、授業参観を通して、学校の教育活動の様子を保護者に伝えることができた。 課題 ・職員の校務分掌等への負担感が強く、行事の精選や見直しを行い、教員の働き方改革を進めていくことで、教員の負担軽減と教育活動の充実の両立を図る。

<b>4 評価表</b> ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○全教職員が校長の学校経営方針を理解し、それぞれの校務分掌に対して学校運営参画意識をもって教育活動を進めることができた。また、各部会（運営委員会、生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会等）を通して、情報を共有しながら組織的に学校の教育活動を進めることができた。 ●令和7年度の学校評価の結果を生かし、令和8年度の教育課程の作成を進める。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研修の量や内容を精選することができ、また、実りの多い研修を行うことができた。教職員の資質・能力の向上に努めることができた。特に、学級経営についての研修を充実させることができた。 ●研修の量や内容を精選し、令和8年度の計画を立てていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○様々な防災訓練（不審者対応、避難訓練等）を行うことができた。教職員、生徒の危機意識の醸成を図ることができた。 ●危機管理マニュアルの見直しを行い、令和8年度用に新たに作成をする。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○新校務PCの移行は様々な研修を通してスムーズに対応することができた。 ○管理職が日頃から全教職員に対して個人情報の取り扱いについて指導を行い、また、個人情報持ち出し簿を活用し、漏洩防止を徹底することができた。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配信メールを有効に活用し、保護者に様々な情報を確実に伝えることができた。また、各種便り（学校便りや学年便り等）や学校HPで学校の教育方針や教育活動の様子を発信することができた。</li> <li>○保護者会や授業参観、学校行事（体育祭や合唱祭等）を通して、教育活動を保護者に伝えることができた。</li> <li>●学校運営協議会委員の方やPTA、保護者の方、そして地域の方からの様々な声を学校の教育活動に生かしていく。</li> </ul>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和8年度の研究発表に向けて、小中で一貫して学級活動について、研究を深めることができ、今校区の全教職員が合同研修会や研究授業の相互参観等を通して、教職員の授業力の向上を図ることができただけでなく、小中の教職員の交流や相互理解を図ることができた。</li> <li>●今年度の研究の取り組みを通して明らかになった成果や課題を、令和8年度の年間指導計画や全体計画を作成する際に反映させ、研究組織を再編する。</li> </ul>

(様式2・中学校用②)

草加市立新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>・教育計画の作成</li> <li>・教育活動の評価</li> <li>・目標、方針の周知</li> <li>・授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員が学校教育目標を理解し、教育活動を行うことができ、自分の校務分掌に対して、学校運営参画意識をもってあたり、学校全体で組織的に教育活動を進めることができた。令和7年度の教育活動の成果と課題を明確にし、令和8年度の教育課程に反映させていく。</li> <li>●学校行事等の関係で、当初予定していた授業時数の配当にやや偏りが生じてしまう部分があった。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員一人ひとりの教材理解と教科指導により、多くの生徒が主体的に授業に臨むことができた。また、ICT機器を有効に活用する場面や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践することができた。</li> <li>○学期ごとに教科会を開き、進捗状況や指導法、そして学力状況調査の結果を共有することができた。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の作成</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・道徳的実践力の育成</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> <li>・いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会等を通して、一人ひとりの教職員の道徳の授業の授業力の向上を図ることができた。また、ローテーション道徳を実施し、価値項目を網羅して授業実践を行うこともできた。</li> <li>●指導と評価のあり方については、継続して研究を進めて必要がある。</li> </ul>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・学級活動、学級経営</li> <li>・学校行事</li> <li>・生徒会活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会の生徒が中心となり、生徒会活動や学校行事、自治活動において、生徒と教員が協働して企画・運営していくことができた。</li> <li>●学級会の進め方等、小中で一貫したマニュアル等（学級会の進め方や合意形成の仕方等）を作成していく必要がある。</li> </ul>

⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価の工夫</li> <li>・地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会体験学習や進路学習等、各学年で計画的に学習を進めることができた。</li> <li>●生徒自らが課題を設定し、解決できるよう、より探究的な活動を意識した指導を実践するために、年間指導計画や全体計画を見直す。</li> </ul>
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、生徒理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部会（生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会）を通して様々な事案の状況を共有したり、指導方針を検討し、組織的に対応をすることができた。</li> <li>●不登校の生徒対応について、SCやSSC、そして外部の機関とより連携を図りながら、一人ひとりの生徒の支援を充実させ、組織的に対応を行う。</li> </ul>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的なキャリア教育</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・進路情報の収集・活用</li> <li>・職場体験活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導主事が中心となり、各学年において、発達段階に応じたキャリア教育・進路指導を実践することができた。</li> <li>●3年間を見通した進路指導を進めていくために、学校全体でキャリア教育の指導を見直し、充実させる。</li> </ul>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりの個性の把握に努め、学級担任だけではなく、相談員やSC、SSWと連携し、個に応じて柔軟な支援を行うことができた。</li> <li>●通常級に在籍する、特別な支援を要する生徒への指導を関係機関と連携を図る。</li> </ul>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校司書、図書委員による図書室の整備や掲示物の作成などで、図書室の利用環境を整えることができた。</li> <li>●朝読書の時間を大切に、読書に対する意識をより高めていく。</li> </ul>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報機器が充実しており、教職員も生徒も授業の中で活用する場面が増えた。</li> <li>●生徒が情報機器を使用する際の情報モラルについて、再度指導を徹底する必要がある。</li> </ul>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育活動全体で人権について触れる場面を設定し、生徒の人権意識の醸成を図ることができた。</li> <li>●令和8年度も校内研修において、人権の研修を行い、教職員の人権教育の指導に対する意識を高めていく。</li> </ul>

(様式2・中学校用③)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	新田中学校区の 小中連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区の家庭学習取組</li> <li>・作品交流の実施</li> <li>・合同地域清掃</li> <li>・合同研修会</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新田中学校は長栄小学校とのペアスクールとなっており、様々な場面で教職員だけではなく、児童・生徒で一貫した教育活動を行うことができた。特に、令和8年度の研究発表に向けて、小中で合同で学級活動についての研究を進めることができた。</li> </ul>
	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員やSC、SSWとの連携生徒一人ひとりに寄り添った個に応じた指導</li> <li>・教育相談週間の充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談部会において、一人ひとりの生徒にあった支援策や対応策を担任だけではなく、相談員、SC、SSW等複数の職員が検討することができ、対応に当たることができた。</li> <li>○今後は、生徒との教育相談週間の充実を図るために、様々な手立てを検討(担任以外の職員との面談や、面談マニュアルの作成等)し、実践を進めていく。</li> </ul>

## 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校評価（教職員）の結果から、「A：十分達成している」「B：おおむね達成している」の合計が90%以上を達成することができたのは、全項目において9割が達成することができた。  
特に、学校教育目標や教育課程等、多くの項目で（A+B）の合計を100%の達成度を得ることができた項目は、全30項目中24項目であった。これらの結果から、全教職員が、学校運営参画意識をもって、教育活動に取り組むことができたことが分かる。しかし、部活動や、校務分掌の配置の偏り、学校行事の精選についての意見があり、令和8年度に向けて、教員の働き方改革を進めていき、教員の負担軽減と教育活動の充実の両立を図る必要がある。
- ・学校評価（学校運営協議会委員、保護者）の結果から、全16項目のうち、8項目で（A+B）の合計が90%以上の達成度を得ることができた。その中で、「学校は、保護者や地域に学校の様子を地域に伝えているか」という項目では、97%と高い達成度を得ることができ、配信メールやHP、学校公開等を積極的に学校の様子を発信することができた結果である。
- ・学校評価（生徒アンケート）の結果から、全14項目のうち、7項目で（A+B）の合計が90%以上の達成度を得ることができた。特に、学校生活の中における規律に関する項目ではすべての項目で90%以上を達成し、規律を守ることの大切さを生徒は意識して生活を送ることができたことが分かる。また、「先生は、あなたの考えや思いを大切にしてくれていますか？」という項目では、96.5%の達成度と、とても高い結果を得ることができ、教職員は、生徒一人ひとりに寄り添った指導や支援を日頃から実践することができたことが分かる。

## 6 次年度の改善策

### (1) 教育活動の充実と教職員の働き方改革の両立

- ・学校行事や授業などの教育活動と教員の働き方改革を両立させる教育課程の実現を目指し、行事の精選や見直しだけでなく、より公平で実効的な校務分掌の在り方を検討することで、教員の負担感軽減につなげる。
- ・一人ひとりの教職員の経験や得意な校務分掌を把握し、年度当初に適材適所に校務分掌を割り当てる。
- ・全教職員の学校運営参画意識を高めるために、運営委員会の提案資料を事前に全教職員に回覧し、多くの意見を反映させたり、分掌担当ごとに、学校行事等の提案、企画、運営をする際に、打ち合わせや検討を徹底して行ってから動くことを徹底させる。

### (2) 一人ひとりの生徒理解に努め、組織的な生徒指導と教育相談の充実

- ・生徒、保護者と寄り添い、学校と連携した指導、支援を行う。
- ・学校全体で組織的な対応をするために、それぞれの部会（生徒指導、教育相談、いじめ防止対策）を有効に活用し、いじめ、不登校生徒の解消に向けた支援を積極的に進める。
- ・組織的に不登校生徒の対応を図るために、SCやSSW、諸機関と連携した支援を行う。
- ・生徒が主体となって、自己肯定感や自己有用感を味わうことができる教育活動を実践する。

### (3) 新田中学校区幼保小中一貫教育の充実

- ・今年度までの研究の成果と課題を振り返り、次年度以降の研究をさらに推進する。
- ・新田中校区の教職員が共通した指導観「めざす子ども像」をより一層共有し、教職員の交流と児童生徒の交流をより充実させる。
- ・小中で一貫した学級活動の取り組み方についての研究を充実させる。